

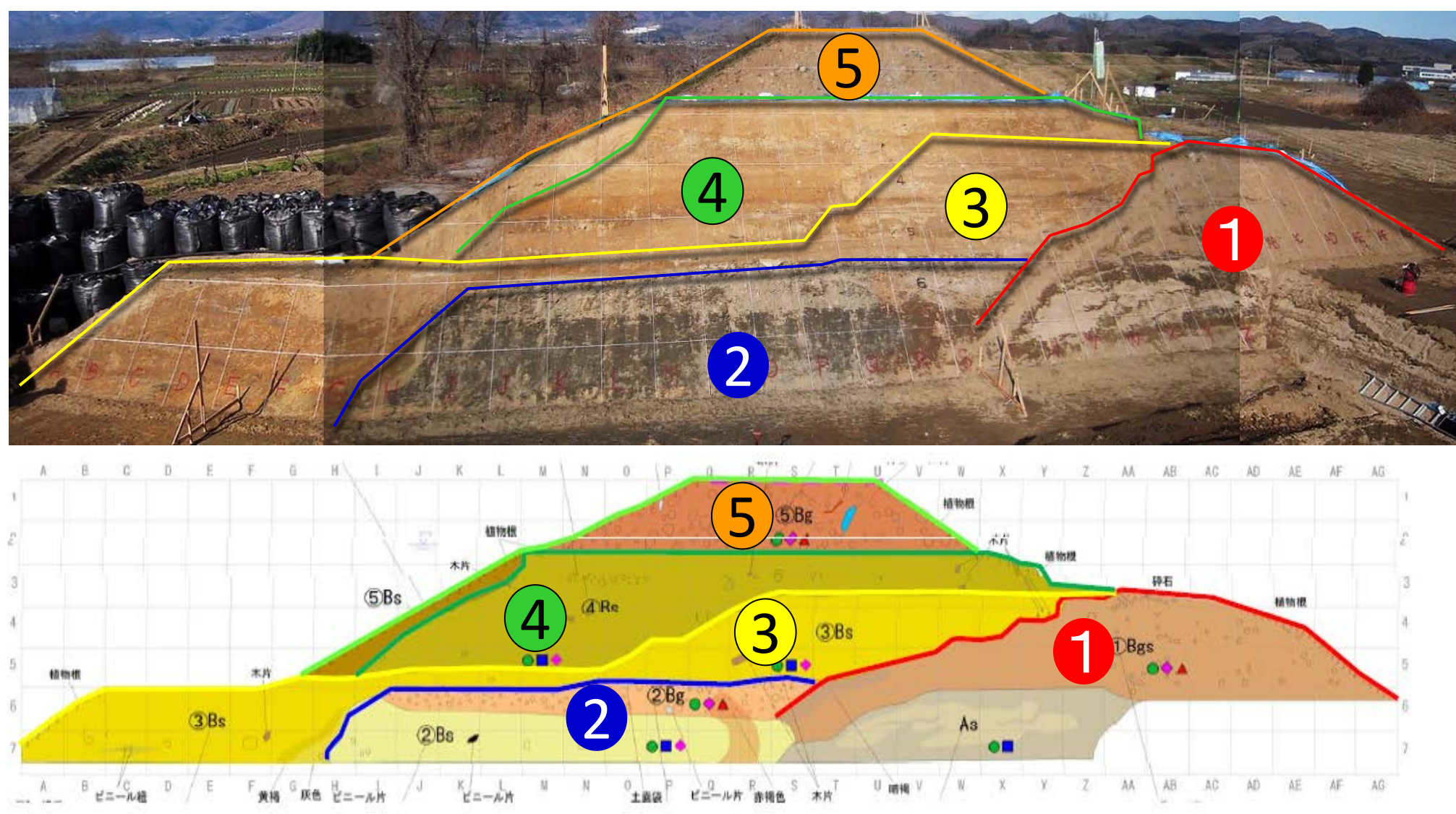
広瀬大橋下部工工事に伴い堤防開削調査を実施し、
阿武隈川支川広瀬川で現場見学会を開催

堤防の開削断面を通じて、地域住民の方に 水害との戦いの歴史ご覧いただきました！

堤防開削調査とは？

広瀬大橋下部工新設工事を機会に、堤体の土層構造や築堤の履歴等を目視確認・記録のうえ調査を行い、今後の堤防の質的向上に関わる検討や対策実施等に資する有益な資料を収集する事を目的に行うものです。

広瀬川の堤防断面



今回の堤防開削調査では8種類の地層が確認され、5回の築堤履歴が推測されました。

広瀬大橋とは？

福島県の県北地方での重要政策『福島地方拠点都市地域整備事業』で放射軸地域骨格道路の一部として位置づけられ、また市街地の渋滞解消を目的とした国道改築事業の一環として事業中の橋梁です。

見学会の様子



【見学会概要】

開催日時：平成30年4月12日（木） 14:00～

参加人数：約50名

工事名：広瀬大橋下部工工事（受注者：渋谷建設（株））
内容：広瀬川の堤防開削調査の結果を地域住民へ説明

阿武隈川支川広瀬川は昭和61年の洪水で破堤した過去もあって伊達市梁川地区は住民の方々の防災意識が高く、今回の見学会でも熱心に説明をお聞きいただきました。

見学会を通じ、これまで何回にもわたり堤防を補強して地域を守ってきたこと、堤防があるからといって絶対に安全だと思わずに有事の際には人命第一で避難していただきたいことをお伝えいたしました。